

32

# まちてく ギャラリー

2020年2月1日～4月30日

まちてくギャラリーは2013年から始まって、32回目になりました。

今回は、盛岡と滝沢の若い作家の作品を紹介します。No1からNo11までが、滝沢の高杉隆さんの絵画です。12から22までは盛岡の出町隼人さん。立体の作品で新しい表現に挑戦し続けている人です。

絵画も、立体もある意味、社会の現実と自分の現実の違いを埋める作業だと思います。

私たちの身の回りに立ち起こる、さまざまな現象やできごとが時代を作り、社会の流れも激しく変えてしまいます。

私たち個人は、日々の暮らしを送りながら、社会の変化にはそれほど細かく反応を感じるわけではありませんが、いつの間にかインターネットは人びとの生活を大きく変えてしまうし、政治も経済もふり返って見れば、仕組みが大きく変わっていることに気づかされます。

車もいつの間にか形が変わって、電気で走るようになります。

社会はどんどん姿を変えて、若者ほど敏感に変化をつかみ取ります。

美術の世界でも、最近の絵や立体の作品はどんどんかたちを変えていきます。それは流行のようなものなのかもしれません。でもそれが変化なのだと思います。変化のすべてがいいとは思えませんが、いやおうなく変わるのであります。

こうした変化の中で観ると、必ずしもこの二人の作品は新しいわけではありませんが、流れる社会を受け止めようとしている人たちです。